

部会・プロジェクト紹介① 緑・食部会

このコーナーでは MELON の活動母体である各部会・プロジェクトの活動を、1 つずつピックアップして紹介していきます。

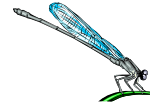
緑・食部会が MELON 誕生から大事にしているのが「緑」「食」「農業」という3つの視点です。『農民』と『消費者』との交流によって、また現地での研修によってたくさんのことが得られるはず。

昨年は、田んぼに行ってどんな生物がいるのかを見て触ってきました。シンポジウムを開催して、環境問題の実態や政策などの勉強をしました。また、農家の方が丹精こめて作った大豆を提供していただき、『消費者』に自分の手でみそを作ってもらいました。緑・食部会はこれらの活動を通して、自然「環境」だけではなく、社会的・政策的「環境」についても広く目をむけながら、環境問題をみんなで考えています。

緑・食部会の例会は、奇数月の第1火曜日に、14時から16時まで開催しています。半分が『例会(活動の計画などの話し合い)』、半分は『学習会』を行っています。皆さんも少しずつ勉強しながら活動しませんか? 学習会のみ参加も大歓迎です。

6月15日(火)には市民講座を開催し、農家の精進料理から食べ物の安全性を学びます。また、11月には食をテーマにしたフォーラムを開催する予定です。部会員を随時募集していますので、緑・食部会の活動に興味のある方は、気軽にご参加ください。

事務局担当/松倉



2003.6.28 田んぼの学校



MELON20周年をめざせ!

50人リレートーク

第1回目の執筆者

MELON 事務局長齋藤昭子
(みやぎ生協副理事長)

一連の MELON10 周年記念イベントは、4月3日(土)の記念植樹で終了した。MELON の活動は、地域の個人や団体、事業体がネットワークを結び、情報交流と活動を広げていこうというものである。基本は人と人のつながりが宝であり、活動推進の原動力でもある。

最近、河北新報夕刊連載中の「100万人の輪」を愛読している。登場者に一度も面識がないのに、仕事やボランティア活動の場面、興味や関心に基づく人とのつながりの広がり思わず共感することがある。キーワードは「知」縁である。このシリーズにヒントを得て、「MELON20周年をめざせ! 50人リレートーク」をスタートすることにした。いいだしっぺで原稿執筆がまわってきた。10年前を思い出した。

93年1月、県内の5協同組合(生協・農協・漁協・森林・専門店会)のトップが一同に会した。「緑と水と食をとおして地域と地球環境を考える宮城ネットワーク」(仮称)設立呼びかけ人会準備会である。同年6月5日環境 NGO「MELON」結成となった。代

表の木村修一東北大学名誉教授をはじめ、協同組合・研究者・弁護士・マスコミ等の有志17名がボランティアで幹事を引き受けた。ブラジルの「地球サミット」から1年後のことである。みやぎ生協は、幹部職員を選任スタッフとして派遣するなど中心から大きく支えることになり、私もみやぎ生協理事の立場で事務局長に就任したのである。

県内で活動する NPO 法人は244、環境分野では NPO 法人21を含む団体139とこの10年で大きく広がった。環境問題の取り組み方向として、MELON は「地球規模で考え、地域で行動する」、「地域で考え、地球規模で行動する」ことを呼びかけてきた。

50人目標のリレートーク、どこまで続くか、<環境とくらしの問題、MELON への苦言・提言>なんでも語ってもらいたい。

次号予告

次は、加藤伊佐雄さん。

この春から河北新報東京支社編集部長、92年地球サミット参加者、シリーズ「無登録農業問題」の編集責任者でもある。